



# 六郷 ろくごう

六郷小学校

H29. 6. 26

No. 10

## 「つながる力」を学んだ宿泊学習

ワクアスでの4年生の宿泊学習が行われました。4年生にとっては初めての宿泊体験です。ワクアスをご存じのように設備が整っており、まるでホテルのような施設です。この事業は教育委員会主催の事業で、2年前に始まったのですが、最初は4年生の宿泊ということで、先生方からは「大丈夫だろうか?」という不安の声がたくさんありました。しかし、実際に行ってみると子ども達はしっかり過ごすことができ、今では美郷町の小学校の行事として当たり前ものとなりました。

六郷小学校の4年生にとって、やはり不安はありました。みんなと泊まるということは、ごはんを食べてお風呂に入り一緒に寝るといふ、大きなイベントです。4年生ぐらいでは、親元を離れて泊まった経験がこれまでにない子どもがたくさんいます。きっと保護者の方々も不安であったことでしょう。だからこそ、この宿泊学習の意義は大きなものがあると言えます。この行事を乗り越えた時には、一回り成長した姿が見られるのです。



### 「花まる学習会」の指導を受けて

この宿泊学習の主な内容は三つあります。横手星の会による「星座観察」、町の生涯学習課による「ニューススポーツ体験」、そして花まる学習会によるゲームです。花まる学習会は、いわゆる塾ですが、勉強を教えるだけでなく、人間関係づくりにつながるゲームの様々なノウハウをもっています。この宿泊学習では、そのゲームをいろいろ紹介してもらっています。そして子ども達には、そのゲームが大好評です。



上の写真は「聞いてビンゴ!」というゲームです。

「名前に“ゆ”がつく人」「弟や妹がいる人」などといった課題があって、それに合う人を探して、見つかったらその人の名前を書いていって、ビンゴを作るといふゲームです。

課題は様々あるので、いろいろな人に聞いて回らなければ、なかなかビンゴにはなりません。このゲームの特徴は、普段一緒にいる友だちであっても、今まで知らなかった面を知ることができる点にあります。そうやって、友だちとの関わりを強くしていきます。

もちろん、いろいろな人に聞くことそのものが大事です。いくらクラスが一緒でも、話す機会がないという友だちもいるはず。ゲームだからこそ、そういった相手とも話がしやすくなり、関係が深まります。



もうひとつおもしろいゲームが、上の写真です。左の2枚は、ある場面をポーズで表現しているところです。右の2枚はそのポーズを見て、何を表現しているかを当てているところです。つまり、「運動会」とか「海水浴」といった場面をグループで決め、その場面にあふさわしい場面設定やポーズを相談して決めます。そのポーズになっているかをお互いに見合って練習を繰り返します。完成したところで、全員の前で披露して「何を表しているか」を当ててもらいます。

このゲームを通して、グループで相談したり協力して作り上げる楽しさを味わったりします。このゲームに子ども達は夢中になります。だまっけても、積極的にいろいろな子と話し合っています。こういった活動を通して、人とかかわることの楽しさを理解していくのです。



花まる学習会の取り組みの良さは、喜びを体全体で表現させることです。上の写真のように、グループ全員ができた時には、「ヤッター」と全員で言って、両手を高く上げるというルールがあります。最初は戸惑い気味の子も達もすぐに慣れて、大きな声を出しながら両手を精一杯伸ばしていました。

## 2年生「手あらい教室」

大仙保健所、大曲食品衛生協会の皆さん11名の方々が来てくださって、2年生へ正しい手の洗い方を指導して下さる「手あらい教室」が行われました。最初に保健所の方から、どんなときに手を洗う必要があるのか、正しい手洗いの方法などを教えてもらいました。

次に手にどれだけ汚れがついているかを調べることができる機器を使って、一人ひとりの汚れの量を調べてもらいました。その次に、正しい洗い方で手を洗って、さっきの機器で再度調べてもらいました。その結果、「洗う前に汚れが少なかった人」「洗うことで汚れの量がたくさん減ったひと」に、メダルが贈られました。



### 外部の方々の力をお借りして

今回の4年生の宿泊学習も、2年生の手荒い教室も、外部の方々の力をお借りしての事業でした。学校は大いに外部の力を借りるべきだと考えています。5月12日の朝日新聞に、元民間人小学校長の山口さんが、『「助けて」外に言っていない』というタイトルで文章を載せていました。今の教師は本当に多忙であるから、もっと外部やプロの力を借りるべきだという内容です。もちろん学校としての本来の教育活動はしっかりやる。それ以外の可能な部分は外部の力を借りる。それが正に文部科学省で言う「チーム学校」なのだと。山口さんは校長当時、1時間の時給で授業する先生に来てもらったそうです。音楽や理科、家庭科をお願いしました。そういう校長裁量の予算があるなんてうらやましい限りです。子ども達は、毎日一緒にいる担任よりも、初めて来てくれた方の話をよく聞きます。初めての方とつながるコミュニケーションは、子ども達の大きな力にもなります。「サポーターズクラブ」を再募集しています。外部の力をお借りする意味をご理解くださって、そちらのご協力もお願いいたします。